

古墳のふるさと 吉見町

国指定史跡

吉見百穴

YOSHIMI HYAKUANA

【よしみひやくあな】

「百穴」の名が文献に見られるのは、今から約二百年前から江戸時代の中頃には「百穴」の呼び名も生まれ不思議な穴として興味をもたれていたと思われる。

吉見百穴が科学的に検討されたのは、明治になってからで内外の著名な考古学者によって調査が行われ横穴の性格をめぐってさまざまな意見が発表されました。

明治二十年、坪井正五郎氏（1863-1913 当時東京大学院生）によって大発掘が行われ人骨、玉類、金属器、土器類が出土しました。坪井氏はこの横穴を土蜘蛛人（コロボックル人）の住居として作られたものであると発表しました。

しかし、大正時代になると考古学の発達によって各地で横穴の発見、発掘がなされ出土品や横穴の構造からこの横穴は、古墳時代の後期に死者を埋葬する墓穴として作られ

たものであることが明らかになり「住居説」はくつがえされることになりました。

そして、大正十二年に「吉見百穴」は、我が国の代表的な横穴群として国の史跡に指定されました。

戦時中、横穴群のある岩山に地下軍需工場の建設が行われ十数基の横穴がこわされてしまいましたが、戦後、地元住民により吉見百穴保存会が結成されて積極的な保存管理が行われ、昭和三十六年より当時の吉見村が管理者となって引き継がれ、今では「吉見百穴」は、多くの人々に愛され親しまれる史跡となっております。

また最低部の横穴に、かすかな緑色の光を発しているヒカリゴケがあります。このゴケは、山地に多く、平野にあるのは、植物分布上きわめて貴重とされ国指定天然記念物となっております。

国指定天然記念物 ヒカリゴケ発生地



吉見百穴 地下軍需工場跡

構内の巨大な洞窟は、第2次世界大戦の末期、昭和20年初頭から8月に至る間地下軍需工場用に掘られたもので、左右約500メートルに亘り山腹に掘られた一部であります。

この戦争の末期に日本各地の軍需施設は、アメリカ軍のB29爆撃機により大きな損害をうけました。この危機に当時わが国で最大といわれた中島飛行機株式会社(現在の富士重工)でもその大宮工場エンジン製造部門の全施設をこの地下に移転することになりました。

掘削は、全国各地から集められた3,000人から3,500人といわれた労働者により昼夜を通して突貫工事として進められ、ダイナマイトを使用した人海戦術でした。トンネルは、幅4メートル、高さ2.2メートルの馬蹄形で、現在公開されているのは、10分の1の広さにも及び



ません。

同年7月頃には完成した場所に工作機械が搬入され大宮工場から移転した従業員や勤労労働員学徒により、エンジンの部品が製造されましたが、本格的な生産活動に移る前に終戦となりました。掘削工事に従事した朝鮮人労働者の最後の一人の帰国に際し、関係者により催された懇談会の席上、日本と朝鮮の平和を希望して植えられたムクゲの苗は、この地で生長を続けています。

埋蔵文化財センター

縄文時代の土器や土偶をはじめ、県指定文化財の白磁四耳壺などの出土品が展示されています。



体験学習 勾玉・ハニワづくり



古墳にちなんだ勾玉・ハニワづくり体験ができます。

【勾玉づくり】

参加費:350円
受付時間:10:30~15:30

【琥珀勾玉づくり】

参加費:1,000円
受付時間:10:30~15:00

【ハニワづくり】

参加費:500円
受付時間:10:30~14:30

※団体でご利用の場合は事前申込が必要となります。



吉見百穴 周辺マップ

交通案内

バス停
吉見百穴
入口まで



- JR高崎線「鴻巣駅」西口下車、バスにて「東松山駅行」約25分。
- 東武東上線「東松山駅」東口下車、バスにて「鴻巣免許センター行」約5分。
- 関越自動車道東松山I.Cから、鴻巣方面へ約5km。
- 圏央道川島I.Cから、熊谷方面へ約8km

観覧料 ● 大人300円 小学生200円

小学生未満無料

無料駐車場 ● 200台

観覧時間 ● 8:30~17:00(入場16:30頃まで)

年中無休

観光ホームページ ●

<http://yoshimi-kanko.net/>

お問い合わせ先

吉見百穴管理事務所

〒355-0155

埼玉県比企郡吉見町大字北吉見324

TEL 0493-54-4541

埋蔵文化財センター

TEL 0493-54-9111